

愛知・岐阜 地方会

第3号

第3回 愛知・岐阜 地方会 2015年5月30日（土）11:00～16:30
開催地：羽島市文化センター 4階 大会議室

第1部 交流会 11:00～12:30

お弁当を食べながらの交流会



当支部初の試み、“お弁当を食べながらの交流会”を行いました。皆様が交流しやすいように、交換用の名刺を（記載は各自）用意致しました。終了後のアンケートに、交換用の名刺があり良かった、名前を知る事の重要性を再認識しました等の感想を頂きました。

和やかな雰囲気での交流会となり、いろんな情報交換が出来ました。



第2部

【開会挨拶】 羽島市民病院 副院長 大宮 史朗先生

チーム医療の一員である事を認識して!!



第3回 愛知・岐阜地方会は、岐阜県羽島市文化センターで開催致しました。当支部の副代表世話人である、大宮史朗先生のご挨拶では、「医師事務作業補助者の導入により、医師の業務の負担軽減は、どの病院でも効果が上がっており、国からも認められてきている。皆さんも、周りの先生から、感謝の言葉が聞かれると思います。医師事務作業補助者の皆さんが、チーム医療の一員である事を認識して、皆さんの業務が最終的には、患者さんのためになる事を意識して仕事を行ってください。」と、お言葉を頂きました。

大宮先生は、一人でも多くの医師事務作業補助者に地方会に参加して頂きたいと、150名参加できるこの会場を選定し、会場の下見にも同行して下さいました。

講演【がん診療と医師事務作業補助 チームで行う「がん地域連携パス」】

講師：春日井市民病院 がん相談支援センター部長 外科医長 會津 恵司先生

医師は、患者の人生に影響を与えるインフォームドコンセントに力を注ぎたい!!



會津 恵司先生からは、日本人のがんについて、その中でも、大腸がんについて、また、がんの地域連携パス及び、がん地域連携パスのチーム医療における医師事務作業補助の役割について、ご講演いただきました。短い時間の中、大腸がんの診断・治療・手術・術後の化学療法、そして、予後について詳しくお話して頂きました。

「がん地域連携パス」はチーム医療であり、医師事務作業補助者は重要な働きを担っていると話いただきました。再発の早期発見のためには、綿密な経過観察が重要であり、定期検査の予約、患者管理、統計など、医師事務作業補助者は幅広く活躍しています。

講演後の会場からは、活発な質問もあり、休憩時間には、質問の列ができるほどでした。

講演【介護保険と「主治医意見書」について】

講師：浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長 特任教授 小林 利彦先生

病名ではなく、症状・状態を重視!! 患者ではなく、家族の視点で記載する!!



小林利彦先生より、介護保険・主治医意見書のレクチャーとして、介護保険の考え方、主治医意見書の記載のポイントを分かりやすく説明して頂きました。困った意見書、よく分かる意見書を症例提示して頂いたことで、介護保険・主治医意見書作成のポイントがつかめ、すぐに現場で役立ったと思います。

～困った意見書～
例)

1.更新時の意見書で、経過欄に、「初回申請時と同じ」と書いてある。認定審査会は毎回異なる可能性があり、初回の意見書を見ることは容易ではないので、毎回詳しい経過を記載してください。

2.病名は、生活機能低下の直接の原因となっている、能力障害の原因となっている病名を「1」に入力する。

×胃がん手術後 ○廃用症候群

3.認知症高齢者自立度には認知症チェックしているが、病名は・・・

・高血圧・糖尿病のみ

・変形性膝関節症のみ

認知症があれば、病名にも記載を!!

～よく分かる意見書～

介助の手間がかかっている事を具体的に記載する。
例)

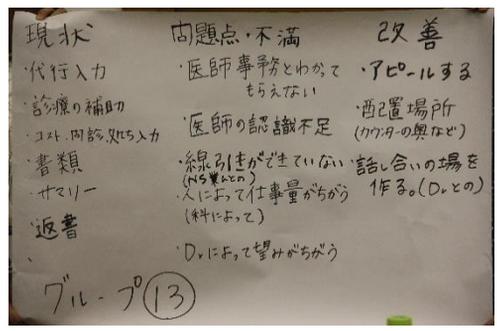
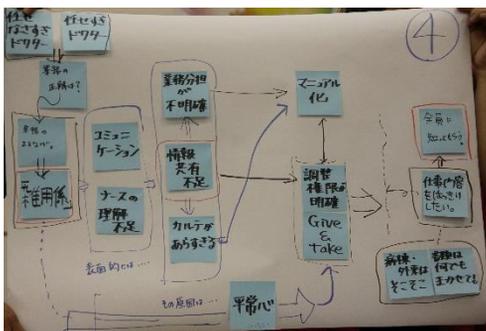
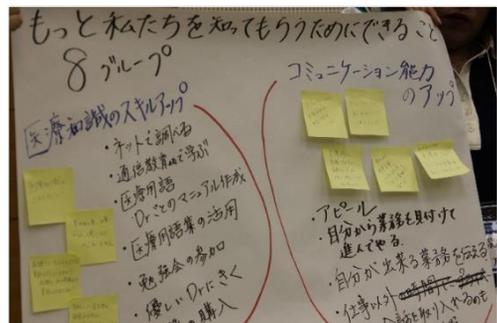
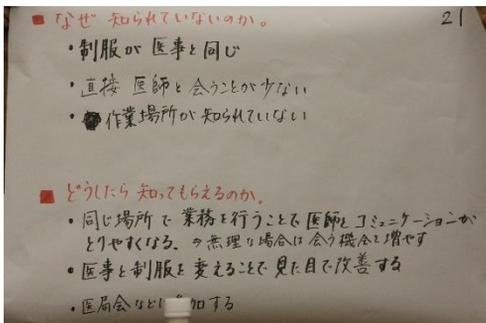
- ・一日に何度も外へ出て行ってしまいそうになるので目が離せない。
- ・家の中で、何度も転倒している
- ・インスリン注射を家族が行っている

グループワーク テーマ「もっと私たちを知ってもらうために」

座長 名古屋大学医学部附属病院 医学部・医学系研究科 医療業務支援課 野田 真喜子

仕事の可視化・存在の可視化

21グループに分かれ、「もっと私たちを知ってもらうために」をテーマにディスカッションしました。最終的に各グループでまとめた事・印象的だったことを発表して頂きました。



【医師からのひとこと】

岡崎市民病院 副院長 早川 文雄先生



医師事務作業補助者の3つの壁!!

地方会を重ねるたびに、内容が非常に充実してきました。医師事務作業補助者の抱える問題提起・標準化にも貢献できていると思います。医師事務作業補助者には、3つの壁があると考えます。①パソコンスキル②医療知識③医師のとのコミュニケーションスキル。この、最も高い壁と考える医師とのコミュニケーションスキルをテーマに、次回の地方会は岡崎市民病院で開催致します。皆さん是非、参加して下さい。

羽島市民病院 副院長 大宮 史朗先生



サポート医師をもっと増やしたい!!

病院ごとに業務内容等は違いますが、問題点は似ています。今後、更に医師事務作業補助者が伸びていくためにも、このような地方会に積極的に参加して頂き、みんなで情報共有しましょう。そして、医師にも、もっと参加してもらえようような体制を作っていきたいと思っています。

春日井市民病院 副院長 佐々木 洋光先生



皆さんが輝けるために応援します!!

ワークショップで、医師事務作業補助者の皆さんの声を聞いて、悩みは同じような事で、業務内容は多少違いもありますが、他の病院の事を聞くことが重要だと思います。本日参加の医師事務作業補助者のみなさんの熱気を感じ、医師としては、皆さんを後押しするために、責任の重さを感じました。皆さんがチーム医療の一員として輝けるようにがんばって頂くように、医師も応援します!!

浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長 特任教授 小林 利彦先生



将来輝けるロールモデルを作る!!

医師事務作業補助者は、資格が明確でなく、院内の規定・運用もはっきりないまま、それぞれが模索しているのが現状。今後、期待したいのは、将来輝けるロールモデルを作っていくこと。キャリアプランが明確でない組織なので、誰も作ってくれない。5年先にはこうなっているというのを自分で作るしかない。5年先に、自分がそこに行くために、スキルアップを含めて、何をやっていくかを考え、そこを目指していくことが必要と考えます。

医師は、それに対するお手伝いができると思います。



参加してみて初めて分かる!!

今回、このような会に初めて参加いたしました。みなさんが、行っている仕事、抱えている問題、病院での立ち位置を知る事ができました。ワークショップにも参加し、病院の中で、自分たちをどのようにアピールするか考えていることが勉強になりました。自分の病院での問題にも気付く事ができました。参加してみて、初めて、皆さんの事が分かったので、参加すると気付く医師もいるはずですよ。

【総括】 東京医療保健大学 医療情報学科 講師 瀬戸 僚馬先生



基本的に前向きなのが良い!!

ワークショップで、「もっと私たちを知ってもらうために・・・」を話し合いましたが、この会場では、どのグループも、こうしよう・ああしようと、前向きな意見ばかり出ていました。前進することを前提に話をされていて、とても良い事だと思います。病院の組織構造は基本的に縦割りです。そこを埋めるために生まれた職種が皆さん、医師事務作業補助者です。隙間を埋める存在ですから、分かりにくい職種であるのは、必然です。医師事務作業補助者を知ってもらうためには、データで成果を出して、認めてもらう。院内のイベントで知ってもらう。院外のイベントでも知ってもらう。そして、遊びの要素も必要です。私たちは、患者さんからお金を頂いています。もっと認知して頂くのは、患者さんでないでしょうか？

学生参加の地方会

来年、医師事務作業補助者の仲間入りかも!!



今回、愛知文教女子短期大学の学生さんがボランティアとして参加致しました。会場設営・片付け、各フロアでの案内係り、マイク・写真係りと、一日にわたり大活躍でした。終了後のアンケートでは、医師事務作業補助者の仕事が具体的にわかってよかった。医師事務作業補助者を勉強する上で、業務内容を知る事ができ、参加してとてもよかった。などの感想を頂きました。来年、もしかしたら、どこかの病院で、医師事務作業補助者の仲間入りしているかもしれません。

愛知・岐阜支部長より

小島 敏美



今回の地方会のテーマは、【チーム医療の一員として輝くための一歩】と題し開催。総勢145名に参加して頂きました。情報交換・医学講座・グループワークを通じて、学んだこと、感じた事を、明日からの業務に役立ててもらえたら嬉しく思います。最後になりますが、今回の地方会にご参加頂いた皆様、また地方会の開催にご協力頂いた皆様に、心より感謝致します。

【事務局だより】



平成27年6月27日（土）～28日（日）
第5回全国大会（宮崎）において、
愛知・岐阜支部紹介ポスターを掲示してきました!!



【第4回 愛知・岐阜地方会 案内】

- <日 時> 2015年10月17日（土）時間:未定
- <場 所> 岡崎市民病院 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
- <テーマ> 未定
- <内 容> 医師事務作業補助者に必要なコミュニケーションスキルについて学ぼう



第4回 愛知・岐阜地方会では医師事務作業補助者として、最も重要なスキルである、コミュニケーションスキルに関する内容となっております。脳科学の視点から岡崎市民病院 副院長 早川先生にご講演いただき、藤田保健衛生大学 教授 米本先生からは、実践に役立つコミュニケーションスキルをレクチャーして頂きます。コミュニケーションについて、楽しく、一緒に学びませんか。

<お問合せ先>
社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 MC課 MCG
[TEL] 0586-72-1211 (代)
[E-Mail] d-jimukyoku@daiyukai.or.jp

※予定は変更する
場合がございます。

